

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 98 (年4回発行)

■発行日 令和3年1月1日
■発行 三春まちづくり協会
■編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100-1(旧若駒寮)
TEL/FAX (62) 3988

「出前懇談会」ついで

街並部会

佐久間 保一

今回の出前懇談会は当街並部会の担当でした。テーマは「自由民権運動のその後」です。当部会は町なかに石柱を立てる事業を行っています。目的は今日あまり使われなくなってきた俗称や城下町独特の地名、お寺が多かったことによる地名などを後世に伝え残したいということ。長年石柱設置をして来て現在三十五基になりました。まだまだほかに残したい地名はたくさんあるのかもしれないが一区切りにして、今度は町出身の著名人に関係する石柱を建てて顕彰していければと計画しています。

新年のご挨拶



三春まちづくり協会長 相川 義則
新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、昨年中は三春まちづくり協会に温かいご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大で多くの行事等が延期や中止となり皆様には大変ご迷惑をおかけしました。一日も早い新型コロナウイルスが収束することを願っております。

さて、昨年我が協会は多年にわたり地域の安全活動に積極的に取り組んだとして、田村地区防犯功労団体として表彰されました。「みんなが安心して暮らせる地域づくり」を目的とし、登下校の児童、生徒に対して、見守り活動と一歩あいきつ運動を実施する等安心安全の活動が認められての表彰です。これも会員様と地域の皆様と一体となった活動の成果と思っております。大変ありがとうございました。少子高齢化の進む中、地域で支え合うことが重要であります。コロナ禍の中、相手を思いやる優しい気持ちで、歴史あるわが街を安全で安心して暮らせる街、町民が誇れるまちづくりを皆様と一緒に作っていきましょう。結びに、新年が皆様にとりまして明るく希望に満ちた素晴らしい年となりますようご祈念申し上げて新年のご挨拶いたします。

一基目は田部井淳子さんの碑を建てました。次はとうとうことになる森嶋外の友人、反射炉を造った人、等々人名はたくさん出てくるのですが、勉強不足でしっかりと詳細まで知っていない人は多いようです。三春町という自由民権運動です。私事ですが実家の座敷の長押の上には先祖代々の写真に並んで河野広中の写真があります。小さい頃は誰なのかなと思っていました。今後の石柱設置の参考にしたいと言わけてこの度の勉強会の開催となりました。ただ自由民権運動の内容について記述するのは研究者にお任せします。



私の役目は藤井さんが話した「自由民権運動のその後」というお話の中から町民の皆様に影響を与えた人たちに顕彰することです。福島事件、加波山事件の後自由民権運動で活動した河野広中はもちろん、若者たちがどのような生き方をしたのか、興味ある内容でした。その中でも、広中が残した記録の中に当時普通選挙を考えるうえで女性の参政権に触れているところがあります。当時選挙も一般的でなかった時代に女性参政権について考えていたことに驚きました。次に初めて知ったことですが、眼病のトラホームのことが出てきたことです。福島県がトラホームの罹患率がとびぬけて高かったのが市川栄枝という眼科医が病院を開設したということ、その事業に広中が協力したということ。他には運動家とハワイ移民の関係、キリスト教との関わり、当時は裕福な人が経済的に恵まれない家庭の優秀な若者の教育の援助をした事例が沢山あった等々、興味ある内容がありました。

講演の後の質問の中で日本全国で何故三春と高知、秩父で自由民権運動が盛んになったのかということがありました。

人と時代と土地と沢山の要因が絡み合っていることだと思えますが興味あることです。勉強会の後で参加者の皆さんと雑談していて思ったのですが、自由民権運動や三春の歴史について詳しい人が沢

山いらつしやるのでテーマを決めずに漠然と三春について語り合う茶和会でも開ければ楽しいかなと思いました。最後街並部会として今後いろいろな機会を設けて知識を広め石柱を設置していきたいと思えます。

「三春ダム」視察研修

環境部会

橋本 喜恵子

秋晴れの九月十五日、今年度は「三春ダム」に参加者七名で訪れました。研修の目的は、三春ダムがどのような役割を果たしているのか等を知るためです。コロナウイルス感染防止のため、三密を避けて事務所の外で、ダムを展望しながら職員の方からパネルでの説明をしていただきました。三春ダムは、一九九八年(平成十年)に阿武隈川の支流である大滝根川に多目的ダムとして完成しました。役割の一つには、台風や大雨によって流れ込んでくる水量を調整し、下流の洪水被害の軽減に努める事です。二つ目は、灌漑用水や生活用水、工業用水として、三春町のほか、郡山市、田村市、本宮市でも使われていて、地域の生活や産業の発展につなげていくために幅広く活用されてい



ます。その他として、ダム湖(さくら湖)の水質保全に取り組んでいることです。水温が上昇する夏期や、上流からの生活廃水(栄養価が高い)により植物プランクトン(青子)が発生して水質が悪化します。そこで、水質保全のために十メートルの水深から空気を吹き上げて、上層と下層の水を攪拌(残層環境)し水温を下げていきます。これによって、光の当たりにくい下層部にプランクトンを沈めて増殖を抑制しています。湖面に大きな渦巻きが見えていましたが、この渦巻きが残層環境を行っている場所でした。さくら湖には、この装置が七カ所設置されているそうです。今回はコロナ禍中のため、ダム堤体の見学はできませんでしたが、コロナが終息の折には、わがまち三春が誇れるこの「三春ダム」を再び視察研修に訪れたいと、参加者一同思いを一つに致しました。

「環境放射線量、(通学路)瞬間測定」

環境部会

今年度も2014年からの継続事業として、東京電力福島第一原子力発電所事故による、町内通学路70ヶ所の瞬間放射線量測定を実施いたしました。測定結果、最高値0.14(城山公園)最低値0.06(新町地区4ヶ所)マイクローシールトで、新町地区は前年度に続き、すべて0.10マイクローシールト未満でした。城山公園については高めの状態が続いております。尚、通学路放射線量の測定結果については、「一覧表」と「グラフ」で閲覧にて、お知らせいたします。

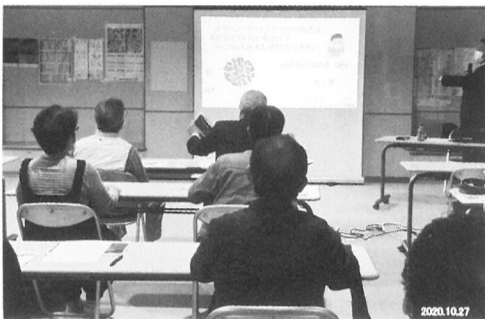
「メデイカルセミナー!」

福祉部会

小池 清美

保健センターにおいて、星総合病院の方を講師に迎え、ACP(人生会議)について、お話しいただきました。人生の最終段階における医療やケアについて、前もって話し合っておくことをアドバンス(A)、ケア(C)、プランニング(P)、ACP(人生会議)というそうです。

厚生省の統計によれば、人生の最終段階における医療やケアについて、家族と話し合ったことがある方は39.5%で、書面に残しておくことを希望した方は、66%いるそうです。



日常生活では、なかなか話し合う機会が作れない「人生会議」について、どのように進めたらよいか具体的に話し合っていました。

1. プロセスは以下のとおり
 2. 治療やケアで大切にしている事を考える。
 3. 信頼できる人を選ぶ
 4. 信頼できる医師やケアチームと話し合う。
 5. 話し合いの結果を記録し、大切な人に伝える。
5. 1〜4まで何度でも繰り返し話し合う。
- セミナー参加者の皆さんも、具体的な「人生会議」の進め方を体験するためにゲームを活用して実践することになり、4人1組で「もしバナゲーム」を

行いました。

重症の患者を多く診療する病院では、患者の人権を尊重するために、入院時に「人生会議」の内容を聞き取り調査する施設が増えています。

これからはもしもの場合に備え、希望する医療やケアを受けられるように、本格的な「人生会議」を開いてみてはいかがでしょうか。「人生会議」と言われてもぴんとこなかったのですが、言われてみれば大事な事とよく分かりました。自分も、少しでも実践できるように努力したいと思います。

「心弾む、瞬間」

地域部会

圓谷 彰孝

琴の素材には桐の木がいいという。静寂で日差しがあり、近くに川があつて、地味豊かな土地に育つたものほど、皆を和ませる音色を奏でるといふのだ。自然の威力を思い知らされる話である。

ともすると、目の前の事柄に突き動かされがちな現代人にとって、自然という、大いなる営みに身を置く一瞬は、何物にも代えがたい。いまここにあることを振り返る、貴重な空間でもあるからだ。「心ここにあらざれば、

見れども見れず。目のまへにみちみちて、楽しむべきありさまあるをもしらざる」

『楽訓(らくくん)』(貝原益軒・江戸期の儒学者)の一節は、わたしたちが忘れかけている、人間としての大事に響いてくる。

晩秋の一日、紅葉に彩られた、「龍徳院・愛宕散策路」を歩いた。風に揺れる木々の葉擦れが心地よい。ふみしめる落ち葉にも驚きを覚え、心が弾んでくるのだ。土中(つちなか)で球根を蓄え、春を待ち焦がれるヤマユリ、小さな緑を誇るヒイラギが、たくましく大地に根を張り、樹木にまきついたアケビは、天空につるを伸ばしている。ひとつひとつが、わたしたちを歓迎しているかのような風情を見せている。

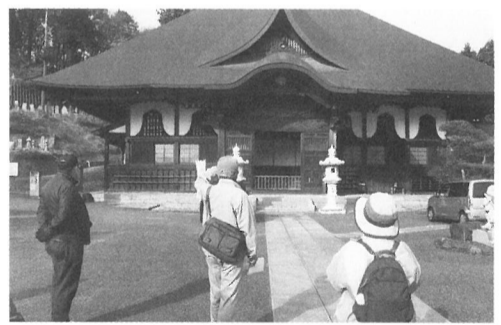
三春には、かつて十七の寺社があつたという。修行僧が各地から集まり、精進料理の食材である、豆腐やそうめんづくりが盛んだったというのだ。門前町の生業(なりわい)である。

紙芝居「秋田家物語」では、戦国期から徳川期にわたる、同家、激動の歳月が紹介された。「先人の歩みがあつて、わたしたちがあると感じます。独り善がりな生き方はできない、ということも。心を平らかにし、現実に向き合っていくたい」(参加者)

雲の切れ間から太陽が顔をのぞかせ、風が手の甲を冷やす中、散策路ウォークは行われた。参加十一人。



は、三春藩の城主であった、秋田氏・歴代の墓所があり、静かに時を刻んでいる。ガイドの渡辺京子さん、高乾院・寺庭(じてい)の岡友子さんが、秋田氏の系譜や、同院の由来を話してくれた。



十月三十一日(土)城山公園のアジサイ植栽地の下草刈りなどの手入れ作業を実施しました。アジサイの手入れは春と秋に実施しています。来年もきれいに咲くことを願って花などを切り採って頂きました。

城山アジサイの手入れ作業



「三春秋まつり」が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になりました。また「石柱拓本ラリー」も取りやめとなりました。個人的に「石柱拓本」をしてみたいと思う人がいらっしやいましたら、三春まちづくり協会事務局にご連絡ください。拓本の小冊子、クーピーなどお渡しします。

お知らせ

「三春秋まつり」が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になりました。また「石柱拓本ラリー」も取りやめとなりました。個人的に「石柱拓本」をしてみたいと思う人がいらっしやいましたら、三春まちづくり協会事務局にご連絡ください。拓本の小冊子、クーピーなどお渡しします。

編集後記

残すところ僅かで新年を迎えようとしている。毎年年末になると、流行語ランキング等今年一年を物語る様々なランキングが発表される。個人的に毎年注目しているランキングは、赤ちゃんの名前ランキングである。▼近年は「レトロネーム」が流行しているが、今年は空前の人気を博したアニメ「鬼滅の刃」に因んだ名前や漢字がどれだけ増えるか、大正時代の設定である同アニメで使用されている漢字がレトロネームの人気の拍車をかけるか否か注目していた。▼たまたまひよ名前ランキングによると、男の子の一位は「蓮」、二位は「陽翔」、三位は「蒼」だった。また女の子の一位は「陽葵」、二位は「結菜」、三位は「莉子」であった。同アニメに因んだと思われる漢字では、「風」が男の子では前年の九十二位から二十六位へ、女の子では前年の六十位から二十位へと各々大幅にランキングアップした。また、ランキングを全体的に見渡すと「陽」「結」などの漢字が多く見受けられた。▼今年はコロナ禍により鬱々とした気分や世相を感じる機会が多かった中、明るいイメージや人との結びつきを求めている心理が名付けに表れているのでは、とも思われた。新年は人との繋がりに満ちた明るい年になることを願うばかりだ。

(目黒知希)

コミュニティだより
「三春わが街」第九十八号
発行日 令和三年一月一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町大字山字泉沢一〇一
(六一)三九八八